

令和3年

季刊

新春号

Vol.76

# 亞東



蔡英文總統新年挨拶（2021. 1. 1）



一般社団法人日本台湾親善協会

Japan-Taiwan Friendship Association

## 一般社団法人日本台湾親善協会の概要

名称 一般社団法人日本台湾親善協会

(英文名) Japan-Taiwan Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―四 砂防会館別館

二階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに民主主義と自由を信条と

する日本と台湾との相互理解と交流を促進して

日本と台湾との関係強化と発展に寄与する。

事業

① 日本と台湾との政治、経済、文化に関する調査研

究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出

版

② 日本と台湾との文化、芸術の相互の紹介

③ 日本と台湾との経済協力の推進に必要な情報の収

集及び斡旋

④ 我が国に在住する台湾関係者及び在日留学生に対

する交流事業

⑤ その他本会の目的を達成するために必要な事業

## 日本台湾親善協会の変遷

社団法人日本台湾親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年、東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二十九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

二〇一二年一月六日、「一般社団法人及び一般財団法人の認定等に関する法律」の施行に伴い一般社団法人としての認可申請が受理され、二〇一三年四月一日より一般社団法人として再スタートいたしました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任され、会長代行の大江康弘参議院議員が就任、二〇一八年五月からは元衆議院副議長の衛藤征士郎先生が会長に就任されました。

日本と台湾との友好交流を発展させ関係の強化を図り、アジアの繁栄と平和に貢献するため二〇一八年九月に名称を「日本台湾親善協会」に変更しました。会員一同、新会長のもと、叡智を結集し努力を続けています。

季刊「亜東」令和三年 新春号・目次

一般社団法人日本台湾親善協会・概要・変遷	二頁
目次・協会役員名簿	三頁
会長新年のあいさつ	四頁
二〇二一年 謝代表 新年祝辞	五頁
理事・監事研修会及び懇親会の集いを開催	六頁
業務執行理事 岩田 善信	
中華人民共和国の対外関係	
口はチヨコレート、心は冷蔵庫	一〇頁
柴田 徳文	
恒例の『新春互礼会』などを中止いたします。一三頁	
日本台湾親善協会副会長 並木 正芳	
謹賀新年名刺広告	一五頁

令和2年5月12日 現在

### 役員名簿

名誉会長	玉澤徳一郎								
会長	衛藤征士郎								
副会長	山本順三	張 建国	張 碧華						
	並木正芳	柴田 徳文							
専務理事	赤松 則宏								
業務執行理事	藤山 雅康	笹岡 恭亮							
	岩田 善信								
理事 21名	衛藤征士郎	張 建国	張 碧華	山本 順三	並木 正芳				
	赤松則宏	谷 秀彦	藤山 山岡	小松 省二	益山 山城				
	伊野雅晴	柴田 徳文	藤山 笹岡	森 康亮	岩城 光善				
	榎本有里	金子万寿夫	富田 恭家	石 散人					
	多 忠貴								
監事	2名	李 八口ルド	鈴木 慶一						
事務局		崎谷 秀彦							
		李 孔晔							

一般社団法人 日本台湾親善協会

## 会長新年のあいさつ



二〇二一年の新年を心から祝福申し上げ、会員の皆様、ご家族皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。

令和三年、本年が災害の無い穏やかな一年と成ることを念じ上げます。

日本台湾親善協会は、日本と台湾の友好・親善交流の促進の為に、会員相互の支援と協力の下、各会員一人一人が明確な指針を以って、会員としての役割を担い、積極的に活動をしております。

年頭にあたり、諸先輩、諸先達が築いてこられた輝かしい業績と功績に対して、改めて敬意を表し、衷心より感謝の誠を捧げます。

昨年来、新型コロナウイルス感染症がパンデミック状態を引き起こし、国内外共に大混乱となっておりま。国際社会が一致協力して、新型コロナウイルス対策に全力で取り組まなければなりません。我が国では新年早々、一都三県で緊急事態宣言が発令され、感染抑制に国を挙げて、更なる取り組みをしなければなりません。

一方、昨年早々にコロナ対策に万全を期し、見事にコロナを封じ込めた、台湾政府並びに台湾国民に対して、世界中から称賛の声が沸き起こっています。本会を代表して台湾の皆様から心から感謝と敬意を表します。

扱て、二〇二〇年は米中の対立、コロナによる世界経済の低迷等々、負のスパイラルの状態でありました。かかる潮流の中で、日本と台湾のプレゼンス（存立・存在）は極めて重大であります。日本と台湾は、アジアに於ける平和・自由・人権・開かれた議会制民主主義の国として、その重責を担い懸命の努力をして参りました。不透明、不確実、激動の国際情勢の中、日本と台湾のプレゼンスは、アジアのキーストーンと言っても過言では無いと思っております。日本台湾両国、日本台湾両国民の相互互恵に一層の貢献をする為に、日本台湾親善協会は最善を尽くす決意を新たに、新年のご挨拶と致します。

結びに、皆様のご多幸を心からご祈念申し上げます。

二〇二一年 令和三年 新春

日本台湾親善協会 会長

衆議院議員 衛藤 征士郎

## 二〇二一年 謝代表 新年祝辞

台北駐日経済文化代表処

駐日代表 謝 長廷



新年明けましておめでとうございます。日本台湾親善協会の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

振り返れば、二〇二〇年はいつもとは違う、大変な一年だったと痛感しています。コロナ禍で我々の生活は大きく変わりました。特に、台日間における人的往來の激減、経済活動の停滞、文化交流の中止など様々な分野に影響を及ぼしましたが、皆様と共にコロナに打ち勝って、台日交流をさらに促進し、発展させてまいりたいと考えております。引き続き、貴協会のお力添

えを宜しくお願い致します。

昨年、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行に際し、台湾はWHOの加盟国ではないことから、WHOに頼ることができず、自国の力だけで切り抜けなければなりませんでした。これまで、台湾の感染者総数は八〇〇人あまりで、死亡者は七人です。台湾は今回の新型コロナウイルスに対し、迅速かつ効果的な対応で感染状況を押さえ込みました。これはまさに台湾の自由、民主主義による透明化された制度が感染対策に奏功したことを証明しています。

新型コロナウイルスの世界的規模での感染拡大により、国境を越えた感染症の脅威が世界的に再認識され、これからの新たな交流や活動等の在り方が模索され始めています。今後感染症の世界的流行に対峙していくためには、各国間の協力が強く求められ、防疫に係る地理的空白が生じることがあってはなりません。台湾のWHOへの参加について、是非とも日本政府をはじめとする多くの国会議員及び地方議員の方々に、引き続きご支持をいただけるようお願い申し上げます。

昨年七月三〇日には、台湾を民主化に導き、敬愛されていた李登輝元総統が逝去しました。李元総統の逝去に際し、日本の方々から多くの追悼の言葉が寄せられ、当代表処にも森喜朗元首相をはじめ、一五〇名以上の国会議員、及び四〇〇〇人以上

の一般の方々が弔問に来られました。森元首相も二回弔問団を引率されて台湾を訪問し、弔問と告別式に出席されましたことを心から感謝しております。

「台湾民主化の父」(Mr. Democracy) 李元総統は台湾における中華民国の政治改革と台湾の民主化推進に非常に大きな功績を残しました。特に、李元総統が台湾で成功させた民主化は、民主主義が欧米など西側社会のみならず、華人社会でも十分実現可能であることを証明しました。台湾の自由と民主主義は、既に述べたように、コロナ禍でも強い存在感を発揮しました。

東アジア地域情勢に焦点を当てれば、今年もその不確実性の震源地が依然として中国であることは明白です。特に安全保障面において、台湾と日本は共に中国という共通の脅威に直面しています。今後アジア太平洋地域の平和と安定の維持のため、台湾は自由・民主・人権を尊重するという価値観を共有する日本と緊密に協力し、運命共同体の協力関係を深めていくことができるよう切に願っています。

新しい年が皆様にとりまして、幸多き年となりますよう心からお祈り致します。

## 理事・監事研修会及び懇親の集いを開催

業務執行理事 岩田 善信

当協会は二〇二〇年一月九日夜、理事監事研修会及び懇親の集いを明治記念館で開催した。研修会では、講師に迎えた台北駐日経済文化代表処の蔡明耀・副代表が、台湾の新型コロナウイルス感染症対策の紹介、東アジア情勢及び台湾の現状などの説明を行った。研修会に続いて開いた懇親会で衛藤征士郎会



衛藤会長 あいさつ

長は、「当協会の使命、役割、責任は、台湾が国際社会において、ブレゼンスを高めるために我々が何をすべきかに尽きる」と説明し、今後の世界の動向や展望をしっかりと見据えて対応していくとの考えを示しました。

蔡明耀・副代表が説明した内容の概要を以下に記します。



## 台湾のコロナウイルス感染症対策の紹介

台湾に入国後は、二週間の外出禁止令が強制されます。謝長廷代表も台湾に帰った時、例外なく二週間の外出禁止が強制されました。

外出禁止期間中、外に出るとすぐ通報されます。担当者が一日二回くらい電話で確認するだけでなく、在宅の状況も聞かれます。もし、外に出ていればすぐわかります。ルール違反者の罰金は一番少額で日本円にすると三五万円ですが、一番高い場合は三五〇万円です。違反者はまだ多いですが、政府は厳しい措置をとっているのです、感染抑止の効果があると思います。現在(二月九日)は、感染者は七一八名ですが、油断はできません。これから、いつ台湾に入ってくるか分からないですから、台湾政府も戦々恐々として取り組んでいます。

コロナウイルスは一日も早く終息するように、全世界の協力が必要です。これからも、台湾政府は日本、世界の国々、WHOと協力して行きたいと思っています。WHOはまだ台湾政府の加入を認めていませんが、日本からたくさんのご支援、ご協力を賜り、公の場で総理大臣、外務大臣、官房長官も台湾支持を表明して下さっています。日本政府も、在外公館を通して世界の各国に働きかけて下さっています。心から御礼を申し上げます。しかし、まだWHOへの加入が実現していません。来年こそ、加入が実現できるように引き続きお力を頂きたいです。

## 東アジア情勢

最近の東アジア情勢について紹介させて頂きます。米国と中国の関係ですが、両国はこの一年、貿易摩擦あるいはIT分野をめぐる対立で大変、緊張状態に入っています。トランプ大統領は、この二年間中国に対し色々な注文をしましたが、中国が応じないため、アメリカは厳しい制裁を科しました。一方、台湾に対しては何本もの法案を通しました。何れも友好的な法案です。例えば、台北法案(台湾の外交的孤立を防ぐことを目的とした米国の法案)とか、台湾旅行法(アメリカと台湾の高官による相互往来や交流を促す米国の法律)とか、これにより、アメリカの大臣クラスは台湾を訪問することが出来るようになりました。すでに、二〇二〇年の八月にアレックス・アザー厚生長官、九月にはキース・クラック國務次官が台湾にいらっしました。

また、この四年間、アメリカから一八四億ドルの武器が台湾に輸出され、戦闘機ではF16A、B型が売却されました。今回新型戦闘機F16V型六六機を台湾に売却することが決まりました。現在台湾が保有している一四一機のF16A/B型機をF16V型にアップグレードすることになりました。もう一点、注目して頂きたいのは、初めて射程距離が二〇〇―三〇〇キロのミサイルが売却されたことです。今迄は一〇〇キロ程度のミサイルでした。日本も長距離ミサイルを開発することが新聞報道に出ていました。中国からの脅威をアメリカばかりでなく日本



講演する蔡副代表

も感じていると思います。

トランプ大統領の任期は、二〇二一年一月二〇日までです。バイデン次期大統領の対中国政策はどう

でしょうか？先日、バイデン次期大統領と菅首相との電話会談が行われました。その中で、私が注目したのは、バイデン次期大統領から日米同盟が東シナ海のことにも念頭に置かれていると提起されたことです。つまり、日米同盟重視です。日本とアメリカは引き続き協力関係を強化していくと思います。

台湾は自由、民主主義を守るために、あるいは地域安定のために、引き続き日本とアメリカと共に頑張っていきたいと思えます。

## 台湾の現状

台湾の現状について、蔡英文総統は二〇二〇年一月一日、一番高い得票数で再選されました。八一七万票です。就任して色々な問題に直面しています。中国からの脅威、一国二制度の受け入れ、香港問題等についても台湾は危機感を持っています。特に、中国軍からの挑発です。今も、毎日のように、中国の戦闘機や偵察機が台湾防空識別圏に侵入しています。

中国は、南シナ海での防空識別圏を作るかもしれません。あるいは、南シナ海の潜水艦の活動のために情報を収集しているかもしれません。台湾は、この中国の軍用機あるいは軍艦の行動に対して適切に対応しています。中国空軍の戦闘機が何回も台湾海峡の中間線を超えてきています。一番近い距離は六〇―七〇キロメートルまで飛んで来ました。台湾は、この線を越えたら警告します。

台湾の立法院、与党民進黨は引き続き過半数をとっています。政府は二〇二二年予定通り一月一日よりアメリカ産の豚肉輸入を認めましたが、現在、国民に理解を求めるように精一杯努力しています。また、日本産の食品輸入に関しても日本の説明を聞いて、日本と台湾の協力関係を強くするために台湾は努力しています。

## 日本と台湾の関係について

衛藤征士郎会長が率いる一般社団法人日本台湾親善協会は長年に渡り、台湾と日本との親善交流を促進しておられます。コロナウイルスが終息したら、一日も早く訪問団を組んで台湾に訪問して下さい。心から歓迎の意を表します。

一九七二年に国交断絶して以来、二〇〇〇年まで正直言っても日本はあまり台湾の存在を重視して来なかったと私はそう思います。一方、重視してくださった先生方もいらっしゃいますが、少数派です。私も二〇〇〇年に日本に来た時、外務省の方々か



らそう言われました。三〇年前台湾はどうなるか日本の関心事ではなかったが、三〇年後は、こんなに台湾と親交が出来ました。特に、台湾経済もこんなに力強く繁栄しましたとは思いません。

二〇〇〇年から日本は対中国の政策が変わりました。一九九八年ころ中国の軍艦が日本の宗谷海峡を通って日本を一周したころから変化しました。日本は中国と国交を結んでから、中国に対しODAを実施しました。同時に、中国はアフリカなどほかの諸国に援助していました。つまり、日本のお金を横流しで流用しました。中国はアフリカの五三か国をコントロールしているかと思えます。二〇〇〇年から、日本は新規のODAを提供しないようになりました。日中間の三〇年ハネムーンは終わつたと私は思います。

近年、日本・台湾の関係が急速に緊密になってきているのは民間レベルの絆によるものだと思っています。一九九五年阪神淡路大震災の時、台湾政府も五〇万ドル、民間からも義援金を提供しました。一九九九年の台湾大地震の時、日本から初めて三二億円を台湾に提供していただき、阪神淡路大震災の時に使われていた二〇〇〇棟の仮設住宅も提供していただきました。二〇〇九年の台湾の水害でも日本から援助をしていただきました。二〇一一年の東日本大震災の時、台湾政府が要請しなくても小学生が自分たちの貯金箱を持ってきて日本に寄付をしました。

二〇〇〇年から二〇〇七年まで私は日本で勤務し、県知事にお会いしたいと申し込んでも会ってくれませんでした。そういう時期でもありました。二〇一三年に私は大阪府知事として勤務しました。大阪府知事の管轄範囲は近隣の二〇の府県ですが、その時には二〇の府県知事に大いに歓迎されました。ある県では、外に台湾の国旗を掲げてくれました。ある県では、テーブルの上に台湾の国旗を置いていただきました。それは、私の正直な感覚であります。台湾に対する感情がまるつきり変化していました。これに、私はホッとしました。これから、日本と台湾は真の運命共同体を作れることを確信しています。

今後とも、引き続き兄弟のような民間交流を強化しなければならぬと思います。さらに、台湾のことや台湾の国際参加及び

び当代表処へのご支援を、この場をお借りして先生方へお願い申し上げます。

先生方に、改めまして感謝の意を申し上げます。また、コロナの猛威が振るっている中、くれぐれも引き続きご健康に気をつけながら、また来年も良い年であるよう祈念しまして私の話しはここまでと致します。ご清聴ありがとうございました。



講演する蔡副代表

## 中華人民共和国の対外関係

### 口はチヨコレート、心は冷蔵庫

柴田徳文

中国の外交姿勢が昨今とみに強硬になったような印象を受ける。特に対米関係においては、大統領選挙の結果がほぼトランプの敗北に傾いてからは、対決姿勢を隠そうともしない。最早トランプは眼中に存在していない。アメリカとの関係では、バイデンとどう対処するのか、その模索に入ったようだ。

しかしアメリカと競合する、あるいは対決する中国の政策の基本は昨近始まったものではない。そのように言うとき多くの人は、習近平が国家主席となつて実権を掌握した頃だと考えているようだが、それも思い違いである。その萌芽は実に今から三〇年ほど前、鄧小平が唱えた「韜光養晦（とうこうようかい）」という言葉に端を発している。彼がその言葉に込めた思いは、中国は決していつまでも頭を下げたままにいるということではない。本来の意味は、時期が来るまでは爪を隠し才能を覆い隠しているが、時が来れば頭を出すという意味である。将来必ず頭角を現すことを前提としている。待ちに待った時が、今やつと来たということである。

トランプが選挙に敗北して、今や中国を処罰できる国は存在しなくなった。まして本年（二〇二一年）一月に入ってから

トランプの失政で四年後のカムバックも危ういものになった。中国に恐れるものは何も残っていない。バイデン政権に、トランプ大統領時代と同様の対中強硬姿勢が採れるのか甚だ疑問だ。結局は妥協を繰り返して米国内での人気維持に腐心することになるだろう。

そこで今後中国がどのような外交を進めてゆくのか、その特徴をいくつか挙げてみたい。まず大原則として挙げられるものは、中国は自分の求めるものを直ちに手に入れられるようになったということだ。鄧小平の時代には求めても手に入らなかったものが、今や望むならいつでも入手できる。時期も内容も、全て中国の思いのままである。

しかしなお中国は数々の機会に外国との様々な交渉を行い無数の取決めを結んでいる。それらの合意とはどのような意味を中国に持っているのか。外国との約束は中国にとつて何なのかを見てみたい。

二〇一六年七月一二日、オランダのハーグに設置された南シナ海仲裁裁判所は中国の南シナ海における行動に対して初めての国際司法判断を下した。一五項目に及ぶフィリピンの提訴項目全てに対して、中華人民共和国が主張してきた歴史的権利について国際法上の法的根拠がなく違反するとした。これに対して中国はこの仲裁について「二片の紙くず」（戴秉国・前國務委員）、「受け入れず、参与せず、認めない」（人民日報）、「茶番劇」（王毅外相）と、相手にしない立場を採った。自分に不

都合なものを受け入れず、都合の良いものだけを取るという姿勢である。

また中国は平気で嘘をつくと言われている。最近の例でみると、昨年から大爆発した新型コロナウイルスの国内患者数を実際より極端に少なく発表した。中国疾病予防管理センター（CDC）は武漢に住む一一〇〇万人のうち四・四三％が新型コロナウイルスに対する抗体を持っていたことを明らかにした。（サウスチャイナ・モーニング・ポスト）この割合だと、武漢の新型コロナウイルス感染者は五〇万人となるはずだが、当局は感染者数を五万人と報告している。自国にとって都合の悪いことは臆せず嘘で言いくるめる体質が中国には存在していると考えざるを得ない。

ただこの体質の背景には、単に子供がその場逃れのために言いつくろうような嘘とは別のもっと深い理由もあるようだ。自由主義社会に住む我々には理解が及ばないが、共産主義者には我々が使っているのとは違う言葉の使い方があつた。事の善悪に関しても共産主義者が善と考へているものが、我々には悪と思われれるものがある。例えば政権奪取に暴力を用いることは彼らにとつては選択肢のひとつあつて別に排除されなければならぬものではない。共産主義者の価値基準が自由主義社会で我々が共通に認識しているものと異なつて、十分心を得ておく必要がある。

また嘘そのものに対して、それは絶対悪ではなく、必要に

応じて使い分けることのできる道具にしか過ぎないのだ。だから中国人自身でさえ他人は騙すものだと思つて日々を送つていて、騙されたら、騙す人より騙された人がバカなのだと思へるのだ。

国際の間においてもそれがまかり通つていて、しかし現実には中国は多くの国と交渉し無数の取決めを結んでいて、そのことをもつて中国は外国との約束を守る国だと勘違いしてはならない。中国は外国と妥協して自分の望むものを諦めたりしは決してしない。中国は最終的には必ず欲しいものを手に入れる。ただ問題は入手のためのコストである。余りも高い代償を払つて入手しても割が合わない。そこで交渉を行うのである。中国が交渉を行うのは単にコスト軽減のためであつて、本当に欲しければ最終的には腕づくで手に入れる事には変わりない。

唐突だが、ここである問題を提起してみたい。中華人民共和国が国家の形をとつていて、中国を国家として捉へることは正しいのか。愚問の極みだと言われるかも知れないが突き詰めてみたいと思つた。我々が知つていて、国家の形には二つのものがある。一つは「民族国家」と呼ばれるもので、「民族」が先行しそれが統治形態を求めてきたものである。他の一つは、一定の領土の上に人々が生活をしており、それを統治権力が束ねているもので、国際法に言われる国家の三要素を満たすだけのものである。一七世紀から一九世紀にかけて、ヨーロッパではキリスト教下での普遍主義を脱却して次々と民族が自覚されそ

れを基に民族国家が生まれた。民族とは「同朋意識」を共有している人々の集まりである。第一次、第二次世界大戦を経て世界の人々は数多くの政治体に分かれたが、様々な事情によって民族を土台にしない政治体も生み出された。今日二〇〇内外の国家の中で、民族を土台に「民族国家」を構成しているものは寧ろ少数なのかもしれない。これは構成民族が単一か否かについてものではない。およそ如何なる国も完全な単一民族だけで構成されているものはない。最近アメリカの分断が叫ばれているが、アメリカは完全な民族国家である。

中国はそうみると、民族国家ではない。これは単に中国大陸に居住している人々を中国共産党が支配しているだけのものである。最近「中華民族」という言葉を作り出して無理やり民族国家の形をとろうとしているが上手くいっていない。中国の人たちの間に同朋意識があるのか。天安門事件の際最も容赦のない態度で鎮圧を実施したのは地方からきた部隊だったとの説もある。彼らにとっては北京の人間は外国人にも等しく、共感をかちあうことなどなかっただろう。

では全ての中国人が同様の考え方を持っているかというところは違う。台湾に住む中国人はそのような考え方はしていない。約束を守るし嘘を恥じる。その違いはどこから来たのか。一説には日本統治の際の教育に言及するものもある。それも大きな要素であるが、それ以上に大切なことは信頼できる政府をもっているかどうかである。全ての中国人が自己中心的で騙しあい

の中に生活をしている訳ではない。彼らには約束を守り人を裏切らない社会がある。それは宗族や家族の中においてである。そこでは約束は証文なしで守られる。そこでの順守義務は西欧社会が持っているものより遥かに厳しい。つまり自身が属していると認識している集団とそれ以外のものとの厳然とした区別がある。中国においてはその様な二つの基準を使い分ける必要がある。だから中国にそのような使い分けがあるという事は、中国人は常に敵に囲まれて生活をしているという事だ。その点台湾においては政府が信頼を支えているので必要以上に心配することはない。

最後に、そのような中国とどのように対処して行かなければならないのだろうかを考えて見てみたい。最初に紹介したように、今日の中国を阻む外国は存在しない。中国は益々やりたい放題を重ねるだろう。その際日本にとって最も大切なことはその中国に飲み込まれない様にすることである。断固として対抗する姿勢を貫かねばならない。日本人のうちの多くに中国の支配を許容する考えがある。長い物には巻かれる、面倒くさいことはいやだとする風潮である。金と引き換えに自由を売り渡したい人がどれほど多いことか。しかし一旦そうなったらもはや自力での脱出は不可能だ。中国の奴隷となるのか自由を維持するのか、真剣に考える必要がある。これは長く困難な戦いになるだろう。中国と戦う以上に国内の敵とも戦わなければならぬのだから。

ではこの状態はいつ終わるのか。外部の誰の力でも変えられない。中国が自分で変わるのを待つしかない。習近平の独裁政権はあまり長持ちしないだろう。ただその後の政権が同様の独裁主義であるなら何も変わらない。中国人の中に同朋意識が生まれて多数の民族国家が出来るのを待つのみである。それがどのくらいの時間がかかるのか。中国で大きな変化が生まれるのは少なくとも三〇年はかかると思う。かつての毛沢東の支配はそれ位続いた。

### 恒例の『新春互礼会』などを中止いたします。

日本台湾親善協会副会長 並 木 正 芳

新年あけましておめでとうございます。会員皆様には日頃よりたいへんお世話になっております。本年もまた変わらぬご支援助とご協力をお願い申し上げます。

さて、新年早々誠に残念ですが、二月初旬に開催を予定させて頂いておりました『新春互礼会』と『新春講演会』は、政府より新型コロナウイルス対策の緊急事態宣言が一月七日に発せられ、最低一ヶ月間となる見込みとなりましたので、会長はじめ役員で相談の結果、中止させて頂くことに致しました。

また『台湾留学生国会見学会』と『会員社会見学会』につきまして今年度は中止とさせて頂きます。

一昨年二〇一九年に発生した新型コロナウイルスは依然拡大

が続き、世界の感染者数は一月十七日現在、九四五〇万一八九二人と一億人を超えるのは時間の問題となり、死者数も二〇二万二七九人と二百万人を超えました。国内でも昨年四月の緊急事態宣言後には一時落ち着いてきたように見えたが、その後第二波・第三波と増え、一月十七日現在、感染者三三万六九六人、死者数四五二五人となり、なお増え続けております。

国内の実効再生産数（一を上回ると感染が拡大に向かい、一を下回ると収束に向かうとされる）は、昨年緊急事態宣言前の四月三日が二・二七、緊急事態宣言終了の五月二五日は〇・六七、その後すぐに増加し六月一日一・二二、七月一日一・五一、八月一日一・四三、九月一日〇・八七、十月一日一・一七、十一月一日一・一五、十二月一日一・〇四、今年に入り一月一日一・一一、二回目の緊急事態宣言が発せられた一月七日の都三県では、東京都が一・二七、神奈川県は一・一一、埼玉県では一・一一、千葉県では一・二二となり、すべてで先月中旬以降は、感染が拡大に向かうことを示す一を上回り、さらに高くなる傾向が見られています。

新型コロナウイルスも接種が始まり、日本でも二月中には可能になるとのことですが、行渡るまでには相当の日数がかかり、変異株も次々に発見され、なお厳しさが予見されます。

こうした状況から当協会の今後の事業も先が見通せませんが会員皆様にはご理解を賜りますようお願い申し上げますとものに自愛いただき、またお元気でおいでできればと存じます。





国会見学 2018.3.27



社会見学 2019.3.27



昨年  
の新春互礼会 2020.2.3



令和三年 謹 賀 新 年 (順不同)

<p>台北駐大阪經濟文化辦事處</p> <p>處 長 李 世丙</p> <p>大阪市北区中之島二丁目三十一番八 中之島フェスティバルタワー一九F 電話〇六(六二二七)八六二三</p>	<p>一般社団法人 日本台湾親善協会会長 衆議院議員</p> <p>衛 藤 征士郎</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二十一 衆議院第一議員会館二〇一号室 新21世紀政治經濟研究 研究所 電話〇三(三五〇八)七六一八</p>	<p>公益財団法人 日本台湾交流協會</p> <p>理事長 谷崎 泰明</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處</p> <p>代 表 謝 長廷</p>
<p>台北駐日經濟文化代表處 札幌分處</p> <p>處 長 周 学佑</p> <p>札幌市中央区北四条四丁目一番地 伊 藤 比 呂 五 階 電話〇一一(二二二二)二九三〇</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處 那覇分處</p> <p>處 長 范 振國</p> <p>那覇市久茂地三丁目一五一九 アルテビル那覇六階 電話〇九八(八六二二)七〇〇八</p>	<p>台北駐大阪經濟文化辦事處 福岡分處</p> <p>處 長 陳 忠正</p> <p>福岡市中央区桜坂三丁目二二四二 電話〇九二(七三四)二八一〇</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處 横浜分處</p> <p>處 長 張 淑玲</p> <p>横浜市中区日本大通り六〇 朝日生命横浜ビル二階 電話〇四五(六四二)七七三七</p>
<p>衆議院議員</p> <p>金 子 万寿夫</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目十二 衆議院第二議員会館二一三号室 電話〇三(三五八)五一一一 FAX〇三(三五〇八)三八一一</p>	<p>衆議院議員</p> <p>奥 野 信 亮</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目十二 衆議院第二議員会館二〇一号室 電話〇三(三五〇八)七四二一 FAX〇三(三五〇八)三九〇一</p>	<p>国際博覧会担当大臣・内閣府特命担当大臣 衆議院議員</p> <p>井 上 信 治</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目十一 衆議院第一議員会館三一七号室 電話〇三(三五〇八)七三二八</p>	<p>衆議院議員</p> <p>秋 元 司</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目十一 衆議院第一議員会館五二四号室 電話〇三(三五八)五一一一 内線五〇五三四 FAX〇三(三五〇八)三三三七</p>

令和三年 謹 賀 新 年 (順不同)

<p>衆議院議員</p> <p>白須賀 貴樹</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第一議員会館一二二号室 電話〇三(三五〇八)七四三六 FAX〇三(三五〇八)三九一六</p>	<p>衆議院議員</p> <p>木村 次郎</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第二議員会館八〇九号室 電話〇三(三五〇八)七四〇七</p>	<p>衆議院議員</p> <p>菅 家 一 郎</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第一議員会館五〇三号室 電話〇三(三五〇八)七一〇七 FAX〇三(三五〇八)三四〇七</p>	<p>衆議院議員</p> <p>金子 恭之</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第二議員会館四一〇号室 電話〇三(三五〇八)七四一〇</p>
<p>衆議院議員</p> <p>根 本 幸 典</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第二議員会館九〇六号室 電話〇三(三五〇八)七七一一</p>	<p>参議院議員</p> <p>鶴 保 庸 介</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二一 参議院議員会館三一三号室 電話〇三(六五五〇)〇三二三</p>	<p>衆議院議員</p> <p>谷 川 弥 一</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第二議員会館一〇一号室 電話〇三(三五〇八)七〇一四 FAX〇三(三五〇六)〇五五七</p>	<p>衆議院議員</p> <p>鈴 木 俊 一</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第一議員会館一〇一〇号室</p>
<p>衆議院議員</p> <p>三 原 朝 彦</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第一議員会館九一二号室 電話〇三(三五〇八)七二九八 FAX〇三(三五〇八)三五〇八</p>	<p>内閣府副大臣 衆議院議員</p> <p>三ツ林 裕 巳</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第二議員会館五二二号室 電話〇三(三五〇八)七四一六 FAX〇三(三五〇八)三八九六</p>	<p>衆議院議員</p> <p>前 原 誠 司</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第一議員会館八〇九号室 電話〇三(三五〇八)七一七一 FAX〇三(三五九二)六六九六</p>	<p>衆議院議員</p> <p>古 屋 圭 司</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第二議員会館四二三号室 電話〇三(三五〇八)七四四〇 FAX〇三(三五九二)九〇四〇</p>

令和三年 謹 賀 新 年 (順不同)

<p>前参議院議員 弁護士</p> <p><b>魚住裕一郎</b></p> <p>東京都港区虎ノ門一丁目一七階 東京不二法律事務所 電話〇三(三五〇二)六四二一 FAX〇三(三五〇二)六四二三</p>	<p>前衆議院議員</p> <p><b>吉川貴盛</b></p> <p>東京都新宿区新宿六―二九―六 エールツ6ビル四F 電話〇三(三三二〇〇)八一六 FAX〇三(三三二〇〇)八一八〇</p>	<p>衆議院議員</p> <p><b>和田義明</b></p> <p>東京都千代田区永田町二―二―一 衆議院第一議員会館四一〇号室 電話〇三(三五〇八)七一七</p>	<p>参議院議員</p> <p><b>山本順三</b></p> <p>東京都千代田区永田町二―一―一 参議院議員会館一〇一九号室 電話〇三(六五五〇)一〇一九</p>
<p>後藤泌尿器科皮膚科医院</p> <p>院長 <b>後藤康文</b></p> <p>岩手県宮古市大通一―三―二四 電話〇一九三(六二)三六三〇</p>	<p>一般財団法人 台湾協会</p> <p>理事長 <b>小椋和平</b></p> <p>東京都新宿区新宿六―二九―六 エールツ6ビル四F 電話〇三(三三二〇〇)八一六 FAX〇三(三三二〇〇)八一八〇</p>	<p>中華民國留日橫濱華僑總會</p> <p>會長 <b>張儀</b> 理監事一同</p> <p>神奈川県横浜市中区山下町一四〇番地 電話〇四五(六八)二二一四 FAX〇四五(二〇一)二八五五</p>	<p>日本中華聯合總會</p> <p>會長 <b>林月理</b></p> <p>東京都港区六本木七―五―一〇 四階 電話〇三(五八四三)〇五八五 FAX〇三(三四〇八)〇三八二</p>
<p>オリオンビール株式会社</p> <p>取締役会長 <b>嘉手苅義男</b></p> <p>沖縄県豊見城市字豊崎一―四―一 電話〇九八(九一)五二二九</p>	<p>株式会社 五常光産</p> <p>代表取締役 <b>屋島 範光</b></p> <p>東京都新宿区西新宿七―三―五 電話〇三(五三三〇)八〇八八 FAX〇三(五三三〇)〇四五五</p>	<p>株式会社 永島製作所</p> <p>代表取締役 <b>永島 剛士</b></p> <p>石川県羽咋市寺家町夕一番九 電話〇七六七(二二)七〇一一 FAX〇七六七(二二)七〇一一</p>	<p>佐伯印刷株式会社</p> <p>代表取締役社長 <b>平岩 照正</b></p> <p>大分市大字古国府一―五―五番地一 電話〇九七(五四三)一一一一 FAX〇九七(五五四)四〇二八</p>

令和三年 謹 賀 新 年 (順不同)

<p>代表取締役 <b>木下 和昌</b></p> <p>木下工業株式会社</p> <p>大阪府大阪市中央区北新町三番四号 電話〇六(六九四六)〇〇七八 FAX〇六(六九四六)〇五〇三</p>	<p>代表取締役 <b>山口 裕志</b></p> <p>東光株式会社</p> <p>東京都渋谷区富ヶ谷二一―一五 電話〇三(五七九〇)五七九〇 FAX〇三(五七九〇)五七九九</p>	<p>代表取締役 <b>鄭 尊仁</b></p> <p>友盛貿易株式会社</p> <p>横浜市中区太田町二―三―一―一 電話〇四五(二二六)二二九八 FAX〇四五(六六三)二二八九</p>	<p>代表取締役社長 <b>成田 正義</b></p> <p>上北農産加工株式会社</p> <p>青森県十和田市大字相坂字上前川原七六 電話〇一七六(二三三)三二三八 FAX〇一七六(二三三)八一五三</p>
<p>副会長 <b>張 碧華</b></p> <p>一般社団法人 日本台湾親善協会</p> <p>千代田区外神田三一七―一七 電話〇三(三二五七)〇〇三二</p>	<p>副会長 <b>張 建國</b></p> <p>一般社団法人 日本台湾親善協会</p>	<p>校長 <b>馮 彦國</b></p> <p>横濱中華學院</p> <p>横浜市中区山下町一四二番地 電話〇四五(六八一)三六〇八 FAX〇四五(六七二)一〇七〇</p>	<p>代表取締役 <b>並木 久</b></p> <p>株式会社 大海</p> <p>神奈川県相模原市中央区田名七五三十八 電話〇九〇(二五四〇)四四六一</p>
<p>業務執行理事 <b>程 金笙</b></p> <p>一般社団法人 日本台湾親善協会</p>	<p>専務理事 <b>赤松 則宏</b></p> <p>一般社団法人 日本台湾親善協会</p>	<p>副会長 <b>柴田 徳文</b></p> <p>一般社団法人 日本台湾親善協会</p>	<p>元 衆議院議員 一般社団法人 日本台湾親善協会 副会長 <b>並木 正芳</b></p> <p>埼玉県所沢市泉町一七九三―三十一―〇二 電話〇四(二九二四)八〇五〇 FAX〇四(二九四五)八〇六一</p>

令和三年 謹 賀 新 年 (順不同)

<p>明 石 散 人</p> <p>中央区築地二一五一〇一二〇八 電話〇三(三五四一)八八四八 携帯〇九〇(八八七二)四七七一</p>	<p>一般社団法人日本台湾親善協会</p> <p>理 事 森 康郎</p>	<p>一般社団法人日本台湾親善協会</p> <p>理 事 崎谷 秀彦</p>	<p>一般社団法人日本台湾親善協会</p> <p>業務執行理事 岩田 善信</p> <p>東京都港区南青山五―六一九 サウス青山マンション五〇四号 電話〇三(三四〇九)七八八八 FAX〇三(三四〇九)九四〇五</p>
	<p>学校法人電子学園 日本電子専門学校 情報経営イノベーション専門職大学</p> <p>理事長 多 忠貴</p>	<p>有限会社 Tommy's Works</p> <p>取締役 富田 家彰</p> <p>東京都練馬区練馬四一五―三二〇五 電話〇三(六七六四)一〇〇〇 FAX〇三(六七六七)六四三四</p>	

季 刊 亜 東 (アジアの架け橋) 令和三年 新春号 (No.76)

発行日 : 令和3年1月15日

発行所 : 一般社団法人日本台湾親善協会

発行人 : 衛藤征士郎

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館別館2階  
Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770

H P : atousinzen@nifty.com

印 刷 : 株式会社サンユー